

# ソフトウェア品質保証 責任者の会

## 開発プロセス（身の丈にあった開発プロセスの探求）

**2014年5月30日(金) 19:00～21:00**  
**ソフトウェア品質保証責任者の会準備委員会**

# これまでの振り返り

## 活動テーマ案

大組織の品質保証を下敷きに  
中小組織に適切な  
品質保証プロセスモデル

品質モデル構築  
各種モデルのテーラリング  
→受入テスト (COTS)  
→品証テストの実装

## 基礎的知識

理解しやすい体系 (≠BOK)

育成 (教育)

Ex. SQuBOK活用

理解しやすく体系化

応用力

ゴール設定と評価指標設定

# 開発プロセス(身の丈にあった開発プロセスの探求)

第二回は

## 「じゃあ、身の丈って」何なんだ？

「身の丈」は誰の目線？→開発側

「身の丈」をさまざまな角度から(もう少し整理が必要！)

誰の目線？→開発側

あるべき姿？or現状

顧客に「身の丈」を説明できるか？

他に置き換える言葉は無いのか？

「身の丈」は誰の目線？→開発側

→「**要求**」と定義できるのでは？

「品質」とは「顧客の要求を満たす度合い」とも言える 「

当たり前品質」と「魅力的品質」と「身の丈」との関係は？

## 開発プロセス(身の丈にあった開発プロセスの探求)

第三回は 活動の方向性の確認と、論議の深堀

### 再び「身の丈って」何なんだ？

品質

「身の丈」:適切なレベル

→現状レベルから「顧客の要求を満たす」レベルへ進めることが必要。

しかし、「身の丈」は、製品、ドメイン、国家・・・により異なる。

→**求められる品質特性も違うはず**。(TQCはあまりにも一般的)

だが、現状は品質を担保できるようなプロセスとなっていない。

解決策→

**品質プロセスをテーラリングする項目、要素の指標を検討する。**

課題

求められる品質特性を抑えるにはどのプロセスが必要か？  
外してはいけない特性は何？

# 開発プロセス(身の丈にあった開発プロセスの探求)

第五回は 論議の深堀

## 「身の丈」を知るには？

方法： →各種メトリクスの記録と比較 ← 単なるアセスメントでよいか？

課題：実力以上の要求 ←基本は“挑戦 (リーダの意識)”

→“挑戦”できる条件とは何か？

ここで“身の丈”を知らないと“無茶/無謀”な挑戦となる可能性

“身の丈”を表すモノは何か？

特性：[製品・組織]、 レベル：[技術・品質・要求]、...

→ 知っていて当たり前 の指摘！ ←それが指摘される理由？

そのための標準プロセス← Not 認証  
ベストプラクティスとして参照

別の  
課題

メーカ(由来のソフトハウス)と独立系ソフトハウスの(品質)意識の差  
→ 埋まらないギャップ(知識、責任...)

# 開発プロセス(身の丈にあった開発プロセスの探求)

## 第六回も 論議の深堀

# 「身の丈」を知るとは？

別の  
課題

メーカ(由来のソフトハウス)と独立系ソフトハウスの(品質)意識の差  
→メーカとメーカ(由来のソフトハウス)においても品質意識のズレあり

**原因:** 責任分担が明確化されていない。ベクトルが合っていない。  
見ている範囲が違う。(システム全体/ソフトのみ)。。

**真因:** 品質に対する目的意識の違い、尺度の違いがある。  
相互に歩み寄り、“身の丈”を、伝え合えていない。

お互いの“身の丈”を伝えるには？

品質意識のベクトルを合わせる。魂を込める。

リスクのギャップを明らかにし、リスクに見合ったものを作る

そのためのプロセスは？

★成功例: 要件定義が明確。最初にプロセスを相互了解。見積もり時から合意あり。

# 開発プロセス(身の丈にあった開発プロセスの探求)

## 第七回は これまでの論議を整理 メンバーの意見を出し合いディスカッションを実施

### 現状のプロセスの把握

品質プロセスをテラリングする項目、要素、  
特性をピックアップする。

身の丈をどう表すか？

立場による「身の丈の違い」を縮めるには？

はずせないモノは



討論結果



事前に課題を提示

1. 現状ご担当されている品質のプロセス、特性を可能な範囲で、簡潔にお書きください。
2. その中で外せないと考えるプロセス、特性を理由とともにあげてください。
3. 前回、別の課題としてクローズアップされたメーカーと独立系S/Hの意識のずれを縮めるプロセスをあげてください。

# 第8回ディスカッション

## ■ ディスカッション内容

### 前回の討論結果を考察

- 「身の丈」の大きさ[要求]で分類してみる
- 「身の丈」の特性[製品・組織]で分類してみる。
- 「身の丈」のレベル[技術・品質・要求]で分類  
してみる。

。。何か見えてくる！



第2期活動の成果へ

- 希望する講演テーマと講師の選定